

## Fusion of a prime number and the physics. (Integer and $h$ )

1) A hypothesis of a prime number and the physics fusion.

The prime number is energy,  $mcc$  and a concentric circle. The center is  $1/2$ .

2). The prime number is related deeply with Planck's constant, ( $h$ ).

3). Natural number is  $1 * \text{integer}$ . The energy is  $h \times \text{integer}$ .

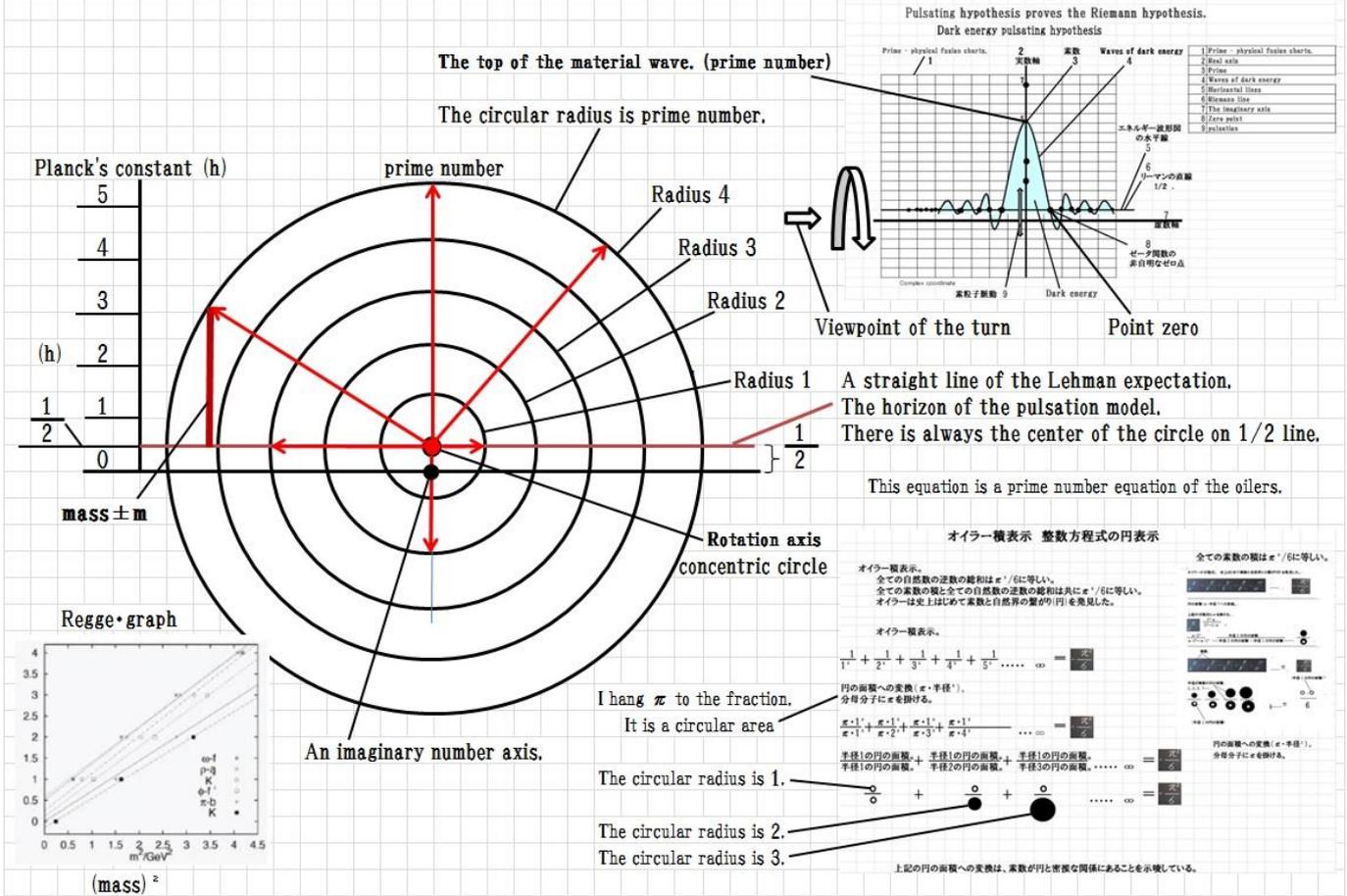
4). I do it with integer,  $1 = 1h$ .

In  $m$ , a radius is a circle of  $nh$ . The prime number can express a radius with the circle of the prime number.

5). The equation of the prime number. I accord with energy  $nh$  and the prime number of the prime number stairs  $n$  turn. (expectation).

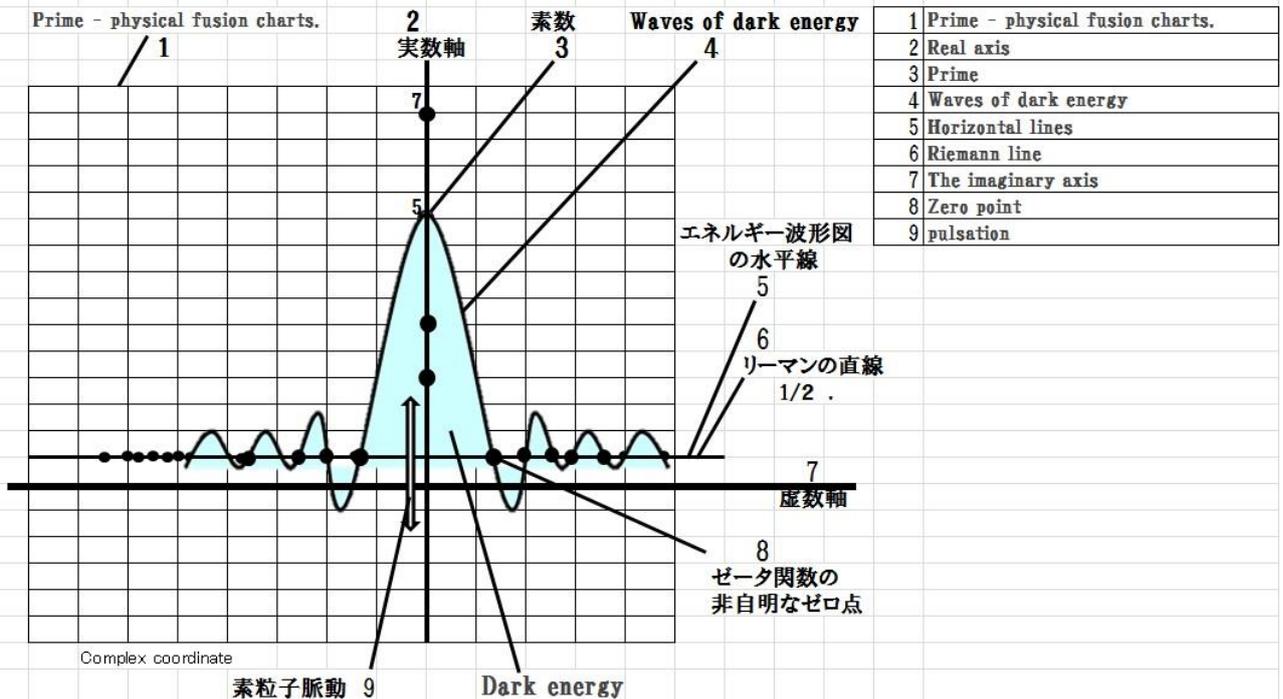
6). The prime number distance of the prime number stairs  $n$  turn accords with distance of the nuclear resonance energy  $nh$  neighborhood. (expectation).

# Fusion of a prime number and the physics. (Integer and h)



## Pulsating hypothesis proves the Riemann hypothesis.

### Dark energy pulsating hypothesis



# オイラー積表示 整数方程式の円表示

オイラー積表示。

全ての自然数の逆数の総和は  $\pi^2/6$  に等しい。  
 全ての素数の積と全ての自然数の逆数の総和は共に  $\pi^2/6$  に等しい。  
 オイラーは史上はじめて素数と自然界の繋がり(円)を発見した。

オイラー積表示。

$$\frac{1}{1^2} + \frac{1}{2^2} + \frac{1}{3^2} + \frac{1}{4^2} + \frac{1}{5^2} + \dots = \frac{\pi^2}{6}$$

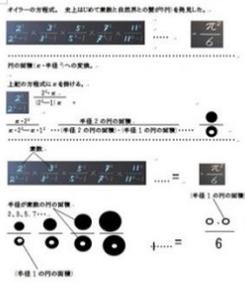
円の面積への変換 ( $\pi \cdot \text{半径}^2$ )。  
 分母分子に  $\pi$  を掛ける。

$$\frac{\pi \cdot 1^2}{\pi \cdot 1^2} + \frac{\pi \cdot 1^2}{\pi \cdot 2^2} + \frac{\pi \cdot 1^2}{\pi \cdot 3^2} + \frac{\pi \cdot 1^2}{\pi \cdot 4^2} + \dots = \frac{\pi^2}{6}$$

半径1の円の面積。+ 半径1の円の面積。+ 半径1の円の面積。  
 半径1の円の面積。+ 半径2の円の面積。+ 半径3の円の面積。.....  $\infty = \frac{\pi^2}{6}$

$$\frac{\pi}{\pi} + \frac{\pi}{4\pi} + \frac{\pi}{9\pi} + \dots = \frac{\pi^2}{6}$$

全ての素数の積は  $\pi^2/6$  に等しい。



円の面積への変換 ( $\pi \cdot \text{半径}^2$ )。  
 分母分子に  $\pi$  を掛ける。

上記の円の面積への変換は、素数が円と密接な関係にあることを示唆している。

# Dark energy pulsating principle. Image picture.

In 1980, presented at the physical society.

Found the presence of dark energy in 1998, after 18 years, but what's the mystery.

Nature is constantly in flickering at ultra high speeds cannot be observed.

Filled with dark energy space, bring the flickering and pulsating.

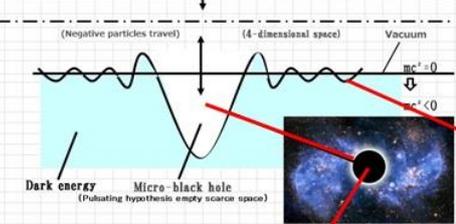
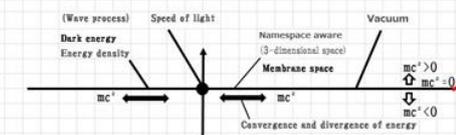
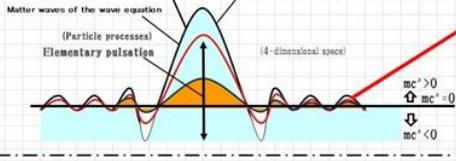
## Particle size-black hole hypothesis

Equivalent pulse hypothesis empty dead space and micro black holes.

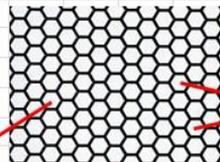
Photon micro-black hole is in the graviton.

Elementary particle physics

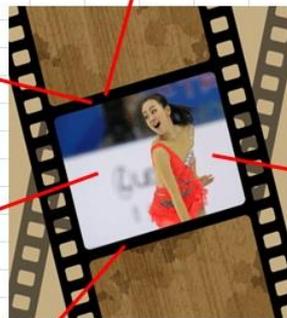
And the pulse of the universe scale equivalent.



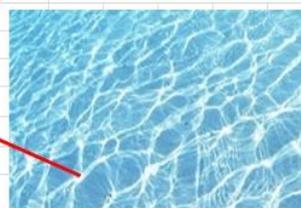
Micro Black hole is filled.



4-dimensional space (the invisible world)  
Photon Group



Movie film (switching piece)



4-dimensional space (the invisible world)

3-dimensional space (Visible world)



Meet the space light (Photon Group)

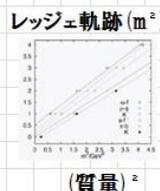
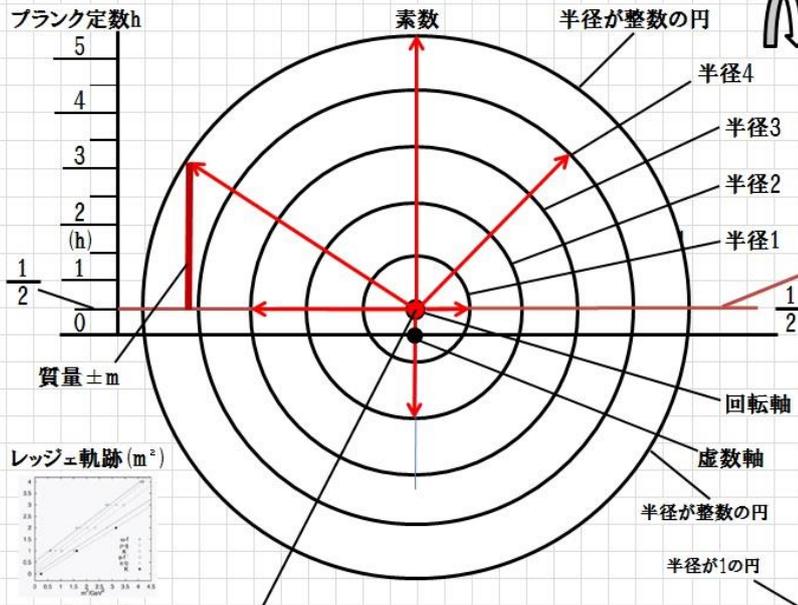
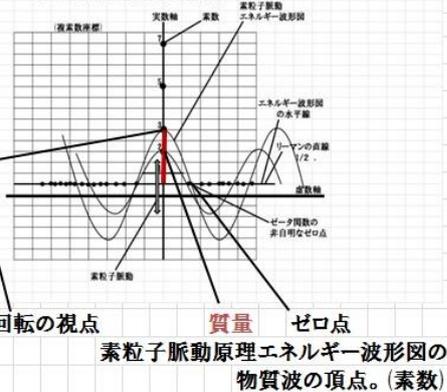
# 素数と物理の融合。(整数の円と h)

- \* 素数・物理融合図によれば、同心円を介して、素数は質量やエネルギーと相関している。
- \* 素数は量子力学におけるエネルギーの最小単位、プランク定数  $h$  と密接な関係がある。
- \* 自然数が1の整数倍であるのと同様に、エネルギーは  $h$  の整数倍  $nh$  である。(nは整数)
- \* 整数1を  $1h$  と設定すると、半径が  $nh$  の質量の円と素数の円とは同心円となる。
- \* オイラー積表示方程式から、エネルギー  $nh$  と素数階段  $n$  番目の素数とが一致する。(予想)
- \* 核の共鳴エネルギー  $nh$  近辺の間隔と、素数階段  $n$  番目の素数間隔とが一致する。(予想)

## 素数と物理の融合。(整数の円とh)

- \* 素数・物理融合図によれば、同心円を介して、素数は質量やエネルギーと相関している。
- \* 素数は量子力学におけるエネルギーの最小単位、プランク定数  $h$  と密接な関係がある。
- \* 自然数が1の整数倍であるのと同様に、エネルギーは  $h$  の整数倍  $nh$  である。(nは整数)
- \* 整数1を  $1h$  と設定すると、半径が  $nh$  の質量の円と素数の円とは同心円となる。
- \* オイラー積表示方程式から、エネルギー  $nh$  と素数階段  $n$  番目の素数とが一致する。(予想)
- \* 核の共鳴エネルギー  $nh$  近辺の間隔と、素数階段  $n$  番目の素数間隔とが一致する。(予想)

リーマン予想のゼロ点と素数の相関図



- \* 素数の円と質量の円は同心円。(ゼロ点の  $1/2$  と  $1/2h$  は密接な関係)
- \* ゼロ点が並ぶ  $1/2$  の直線と質量ゼロの  $1/2h$  の水平線とは等価。

素粒子脈動原理エネルギー波形図の物質波の頂点。(素数)

オイラー積表示、整数方程式の円とプランク定数の相関。

オイラー積表示、整数方程式の円とプランク定数の相関。

オイラー積表示 整数方程式の円表示

オイラー積表示、  
 $\frac{1}{1^2} + \frac{1}{2^2} + \frac{1}{3^2} + \frac{1}{4^2} + \frac{1}{5^2} + \dots = \frac{\pi^2}{6}$

円の前項への変換 ( $\pi = \text{半径}^2$ )、  
 分母分子に  $\pi$  を掛ける。

$\frac{\pi^{-1}}{\pi^{-1}} + \frac{\pi^{-1}}{\pi^{-2}} + \frac{\pi^{-1}}{\pi^{-3}} + \frac{\pi^{-1}}{\pi^{-4}} + \dots = \frac{\pi^2}{6}$

半径1の円の前項、半径1の円の前項、半径1の円の前項、  
 半径1の円の前項、半径2の円の前項、半径3の円の前項、  
 $\frac{\pi}{\pi} + \frac{\pi}{\pi} + \frac{\pi}{\pi} + \dots = \frac{\pi^2}{6}$

上記の円の前項への変換は、素数が円と密接な関係にあることを示している。

# オイラー積表示 整数方程式の円表示

オイラー積表示。

全ての自然数の逆数の総和は  $\pi^2/6$  に等しい。  
 全ての素数の積と全ての自然数の逆数の総和は共に  $\pi^2/6$  に等しい。  
 オイラーは史上はじめて素数と自然界の繋がり(円)を発見した。

オイラー積表示。

$$\frac{1}{1^2} + \frac{1}{2^2} + \frac{1}{3^2} + \frac{1}{4^2} + \frac{1}{5^2} + \dots = \frac{\pi^2}{6}$$

円の面積への変換 ( $\pi \cdot \text{半径}^2$ )。  
 分母分子に  $\pi$  を掛ける。

$$\frac{\pi \cdot 1^3}{\pi \cdot 1^3} + \frac{\pi \cdot 1^3}{\pi \cdot 2^3} + \frac{\pi \cdot 1^3}{\pi \cdot 3^3} + \frac{\pi \cdot 1^3}{\pi \cdot 4^3} + \dots = \frac{\pi^2}{6}$$

$$\frac{\text{半径1の円の面積}}{\text{半径1の円の面積}} + \frac{\text{半径1の円の面積}}{\text{半径2の円の面積}} + \frac{\text{半径1の円の面積}}{\text{半径3の円の面積}} + \dots = \frac{\pi^2}{6}$$

$$\frac{\text{○}}{\text{○}} + \frac{\text{○}}{\text{●}} + \frac{\text{○}}{\text{●●}} + \dots = \frac{\pi^2}{6}$$

上記の円の面積への変換は、素数が円と密接な関係にあることを示唆している。

全ての素数の積は  $\pi^2/6$  に等しい。

オイラーの方程式。 史上はじめて素数と自然界との繋がり(円)を発見した。

$$\frac{2^2}{2^2-1} \times \frac{3^2}{3^2-1} \times \frac{5^2}{5^2-1} \times \frac{7^2}{7^2-1} \times \frac{11^2}{11^2-1} \times \dots = \frac{\pi^2}{6}$$

円の面積 ( $\pi \cdot \text{半径}^2$ ) への変換。

上記の方程式に  $\pi$  を掛ける。

$$\frac{\pi \cdot 2^2}{\pi \cdot 2^2 - \pi \cdot 1^2} \times \dots = \frac{\pi^2}{6}$$

素数  
2, 3, 5, 7, ...

半径2の円の面積  
半径1の円の面積

円の面積への変換 ( $\pi \cdot \text{半径}^2$ )。  
 分母分子に  $\pi$  を掛ける。

オイラーの方程式。 史上はじめて素数と自然界との繋がり(円)を発見した。

$$\frac{2^2}{2^2-1} \times \frac{3^2}{3^2-1} \times \frac{5^2}{5^2-1} \times \frac{7^2}{7^2-1} \times \frac{11^2}{11^2-1} \times \dots = \frac{\pi^2}{6}$$

円の面積 ( $\pi \cdot \text{半径}^2$ ) への変換。

上記の方程式に  $\pi$  を掛ける。

$$\frac{2^2}{2^2-1} \times \frac{2^2 \cdot \pi}{(2^2-1) \pi} = \dots$$

半径2の円の面積  
半径1の円の面積

素数  
2, 3, 5, 7, ...

$$\frac{2^2}{2^2-1} \times \frac{3^2}{3^2-1} \times \frac{5^2}{5^2-1} \times \frac{7^2}{7^2-1} \times \frac{11^2}{11^2-1} \times \dots = \frac{\pi^2}{6}$$

半径が素数の円の面積  
2, 3, 5, 7, ...

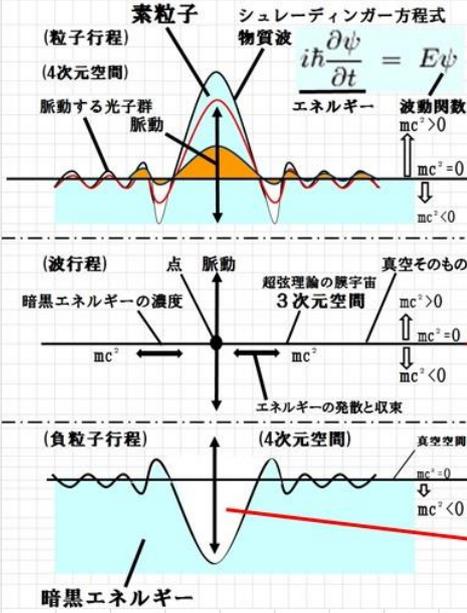
(半径1の円の面積)

# 暗黒エネルギー脈動原理のイメージ図。

1980年、物理学会で発表した理論物理の仮説。 18年後の1998年に暗黒エネルギーの存在が発見されたが、その正体は謎。  
 自然は観測できない超高速で明滅を繰り返している。  
 暗黒エネルギーが宇宙空間に満ち、その脈動が明滅をもたらす。

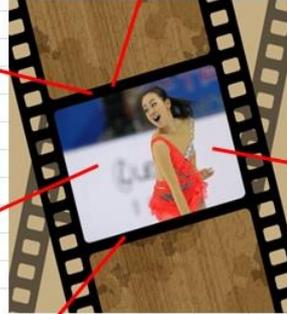
## 暗黒エネルギー脈動原理

脈動原理が解明する量子力学の幾何学

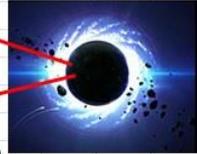
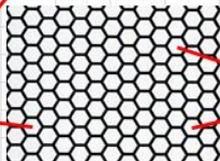


4次元空間 (見えない世界)  
 ミクロのホワイトホールが充満。

3次元空間 (見えている世界)



映画フィルム (コマの切り替え)



4次元空間 (見えない世界)  
 ミクロの  
 ブラックホールが充満。

宇宙空間を満たす光 (光子群)